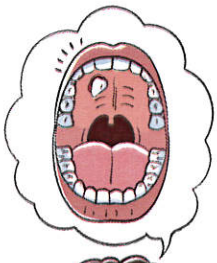


過剰歯って何？



鎌倉市歯科医師会

又吉 誉章

本来より過剰に存在する歯

みなさんは、過剰歯という言葉を知っていますか？お子様の前歯がなかなか生え変わらなかったり、真ん中が開いて生えてきたり、乳歯が早く抜けてしまったりしていませんか？もしもしたら、それは過剰歯が原因かもしれません。

過剰歯とは、字のごとく、本来ある歯よりも過剰に存在する歯のことです。正常な歯の数は、乳歯が20本、永久歯は親知らずを含めて32本なので、それを越えた歯が過剰歯です。正常な歯と同じ形をしている物もありますが、少し小さく、丸や三角の形をした物が多いです。数は、1本だけでなく、2本以上のこともあります。口腔内に出てきている場合と、骨の中に埋まって見えない場合（埋伏過剰歯）があり、乳歯列ではほとんど見られず、永久歯列に多いです。様々な場所に出現しますが、一番多いのは、上顎の前歯の真ん中の過剰歯です（上顎正中過剰歯・埋伏過剰歯）。生える方向も様々で、本来の歯の向きと逆方向に生えて行く場合もあります。過剰歯の原因は、はっきり

とは分かっていますませんが、歯の形成初期の状態である「歯胚」が過剰に作られてしまったり、2つに分かれてしまうことが原因ではないかといわれています。約30人に1人の割合で過剰歯があるといわれており、特別珍しいわけではありません。

過剰歯が発覚する例

- どのように発覚するか例を挙げてみます。
 - 乳歯から永久歯への生え変わりは、6歳前後から始まりますが、それよりも早い時期（5歳ぐら）に乳前歯がグラグラしてきたため、歯科を受診してレントゲンを撮ったら、乳歯と永久歯の間に埋伏過剰歯が存在していた。この埋伏過剰歯が原因で、乳歯の歯根が吸収しグラグラになったことが分かった。
 - 前歯の片方が生え変わったのに、もう片方がなかなか生えてこないため、歯科でレントゲンを撮ったら、埋伏過剰歯が邪魔をして、歯が出てこれないことが分かった。
 - 前歯が開いて生えているため、歯科でレ

- ントゲンを撮ったら、前歯の真ん中に埋伏過剰歯があるため、前歯が閉じることができない状態であることが分かった。
- 変わった形の歯が、歯の間から生えてきたため、歯科を受診したら過剰歯だった。
- 検診でレントゲン写真を撮ったら、埋伏過剰歯があることが分かった。

過剰歯のリスク

- 過剰歯が発覚した場合、歯科では抜歯を勧められることが多いですが、それは、過剰歯にリスクがあるためです。
- 前歯が開いてしまう。
- 歯が生え変わらない。
- 歯並びが悪くなる。
- 隣の永久歯の歯根を押し溶かしてしまう。
- 埋伏過剰歯を取り囲むような袋状の嚢胞ができ、これによって骨や周囲の歯根が溶けてしまう。
- 上に向かって生えて、鼻の穴から出てきてしまう。
- 埋伏過剰歯の隣の歯の神経が死んでしまふと、埋伏過剰歯も菌で汚染されて炎症が起こるなどが考えられます。
- 問題が無いまま経過することもありますが、気になる点があれば、歯科医に相談してみましょう。

（又吉歯科医院）

